

令和３年度第３回区政モニター一会議議事録

令和４年１月１５日（土）午前１０時から正午
北区役所別館 研修室

政策経営部広報課

第3回区政モニター会議議事録

- 1 日 時 令和4年1月15日（土） 午前10時から
- 2 場 所 北区役所別館 2階研修室
- 3 テーマ 多文化共生への取組みについて
- 4 出席者 区長、総務課長、総務主査、広報課長、広報主査、広報課職員、
区政モニター23名

1 . 開 会

◎広報課長

皆さん、おはようございます。

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和3年度第3回区政モニター会議のほうを始めさせていただきます。

本日、司会を務めさせていただきます、広報課長でございます。よろしくお願いをいたします。

本日は、2年間の任期最後のモニター会議となっております。区長も来る予定ですが、用事がございまして、終わり次第、こちらのほうに駆けつけるというふうに聞いてございます。

それでは、区長の挨拶につきましては、区長参りましてから挨拶をさせていただきますと思ってございます。

本日の出席者をご紹介します。

総務課長でございます。

◎総務課長

よろしくお願いいたします。

◎広報課長

総務主査でございます。

◎総務主査

よろしくお願いいたします。

◎広報課長

そして、後方のほうの3名が、広報課の事務局職員でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。まず、机上に配付をさせていただいておりますけれども、次第がございます。そして、「多文化共生への取組みについて」というパワーポイントの資料。そして、区政モニター会議でお寄せいただいた意見等の進捗状況についてということで、こちらは、この2年間の活動で皆様からいただいたご意見、ご要望に対します各施策の進捗状況などをまとめさせていただいたものでございます。後ほどご覧いただければと存じます。

(事務連絡)

配付資料については、以上でございます。

過不足等ございますでしょうか。皆様大丈夫でしょうか。

それでは、本日の進行方法についてご説明をいたします。

まず、総務課長より、20分程度、「多文化共生への取組みについて」をご説明させていただきます。説明終了後は、今回グループ討議はせずに、皆様お一人お一人から、今回のテーマに対する意見または2年間の区政モニター活動を振り返ってのご意見、ご感想などを伺ってまいります。皆様お一人お一人からご意見伺うということですので、大変恐縮ですが、1分程度でお願いをしたいというふうに思っております。

本日のモニター会議終了後に議事録を作成いたします。議事録は、北区ホームページなどで公開させていただきます。議事録に載る部分は開会、説明、発表の部分です。会議中の発言者名につきましては匿名とさせていただきますので、ご了承ください。また、記録用と北区ホームページ掲載用といたしまして、会議中の様子を写真撮影させていただきます。ホームページ掲載時は、皆様のお顔がはっきり写らないように配慮をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

進行方法についてのご案内は、以上でございます。

それでは、ただいまより説明のほうに移らせていただきます。総務課長、どうぞよろしくお願いいたします。

2 . 説 明

◎総務課長

改めまして、皆さんおはようございます。本日は、お寒い中、それから土曜日にもかかわらず、こうして皆さんお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

先ほど、お話し申しましたとおり、「多文化共生への取組みについて」ということで、こちらの区の課題ですとか、そういったものも含めて20分程度お話をさせていただきますというふうに思っておりますので、お付き合いのほう、よろしくお願いいたします。

それでは、恐れ入ります、着座にてご説明させていただきます。

本日、このモニター会議の資料、紙ベースのほうでもお配りをしているところでございます。紙ベースと同じもの、スライドということで投影してございますので、どちらかご覧になりやすいほうでご覧をいただければなというふうに思います。

それでは、早速、説明のほうに入らせていただきたいと思います。

まず、多文化共生への取組みということで、2枚目のスライドに入っていきます。

まず、「多文化共生とは」というところでございます。こちらのほうは、総務省のほうの研究会のほうで、定義といいますか、表しているところでございますけれども、国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら地域社会の構成員として共に生きていくことというふうになってございま

す。この後、いろいろ、様々、皆さん地域のほうで生活されている中で、外国人の方と接点がある方、いろいろあろうかと思えます。その中で、こういうところで、ちょっと困っているなとか、こうしたら、もっとうまくいくのではないかなというふうに、そういうふうに思われてる方も恐らくいらっしゃるというふうに思っております。そうしたところの現実的なお話と、一方で、今日は、区のそういったところの課題も踏まえながらの取組みということで、ご説明をさせていただきます。

それでは、次のスライド、3枚目のスライドになりますけれども、北区の外国人人口の推移でございます。こちら、棒グラフのほうでお示しをしておりますけれども、2018年のところ、2万人を外国人人口、超えております。そして2021年1月1日現在でございますけれども、2万2,271人というふうになっておりまして、これは北区の総人口の約6%というふうになっています。基本的には、この棒グラフのとおり、近年、だんだんと増えている傾向であるというところでございますけれども、2013年のところ、2012年に比べて若干減っております。こちらについては、東日本大震災の影響で日本に来る人口が全体的に落ちたということで、北区のほうも、そのような人数になっております。それから2020年に比べて2021年度も少し落ちてございます。こちらは、皆さんご承知のとおり、コロナ禍ということで人の動きが減ったということで、北区にいらっしゃる方も減ったということでございます。

それから、ここでは触れておりませんが、国籍も多岐にわたっていますということで記載してございますとおりでございますが、北区のほうの国籍でいいますと、多い順から申し上げますと、中国、韓国、朝鮮、ベトナム、その次にネパールというようなことになっております。少し都心区、港区ですとか新宿区、そうしたところとは国籍の構成というのは少し変わってまいります。どちらかという、そちらのほうはヨーロッパですとか、そういったところの人口構成が高いというような状況になっていきます。

国のほうでは、働き手の人手不足といったところもございまして、家族滞在できる職種の範囲拡大なども現在検討されまして、ますます、今後も外国人人口は増えていくということが予想されております。昨年の10月に、北区人口推計調査報告書というものを発表いたしました。こちらによりまして、令和3年から令和23年までの20年間、外国人人口は増えていきまして、今、2万2,000人程度ですが、さらに1万人ほど20年後には増えて3万2,000人に達する見込みだというふうに推計をしております。

それでは、次のスライド、4枚目のスライドのほうに移ってまいります。

北区のこれまでの取組みでございます。北区では、平成16年に北区国際化推進ビジョンというものを作りまして、平成30年に北区多文化共生指針を、平成31年には北区多文化共生行動計画を策定してございます。基本的には、その推進ビジョンというものが北区基本構想の理念を踏まえているもので、この理念の実現に向けて国際化推進の基本的な考えを示しているものです。

それから、中段の北区多文化共生指針ですが、外国人区民の増加が見込まれる中、地域特性の把握に努めながら、将来を見据えた適切な施策を推進していくとい

う、そういったような指針を示しております。

そして、一番下の多文化共生行動計画、こちらは、かなり具体的な計画になっておりまして、なぜ具体的かというふうに申しますと、役所全体の中で様々な事業を推進してございますけれども、そこの中の外国人の皆様に向けた事業を、ここの中でしっかりと定めて、こういった事業を基に北区の考え方を、多文化共生の考え方を推進していくということになってございます。こちらのほうが、現在、来年から3年間の行動計画を、現在、改定作業を着手しているところでございます。

その次の、5枚目のスライドにまいります。

言葉や習慣の違いから、地域や教育現場での課題が存在していますということになってございます。そのために、多文化共生施策の取組みが大切になってくるというものでございます。例えば、課題に対応した取組みとしましては、多言語による生活及び行政情報の提供、区役所窓口、小・中学校における通訳派遣、翻訳協力といったものがございます。こちら、具体的に申し上げますと、お母さんが外国人の方で、お子さんが小学校とか中学校、あるいは保育園に通ってらっしゃるときに、先生との面談あるいは保護者会なんかございますけれども、どうしても、なかなか日本語が難しいというふうなところで、そうしたところで、区のほうから通訳を派遣して、個人面談等を円滑に行っているというような取組みでございます。

それから、三つ目の中黒ですけれども、外国人のための防災講座、日本文化体験の実施というところがございます。外国人の方々につきましては、政府のほうは働き手の担い手というか、そういったところで期待はされているところでございますけれども、もう少し北区といいますか、地域の実情に沿っていくと、いつ災害が起こってもおかしくない、地震が起こってもおかしくないというようなところが度々報道なんかでもございますとおり、災害になったときの外国人など、自らの避難行動とか、そういったところもそうですけれども、地域の中でどういうふうに防災のところでご自分が役割を担っていただくのかとか、そういったところの面も一方では必要になってくるというところがございます。そうしたところの意識づけをするための防災講座。それから日本文化体験の実施ということで、日本古来の、茶道ですとか華道ですとか、そういったものも体験をしていただくことで、まず日本の文化をしっかりと体験していただいて、知っていただく。そういったところから相互理解を深めていこうというものでございます。

それから、一番最後の、この北区日本語教室というものは、後にも出てくるのですが、やはり一番大きな課題が言葉の壁でございます。それを、やはり日本語をある程度習得していただく、しっかりと話しいただくということは、そこに住んでいらっしゃる方々とのコミュニケーションが円滑になると。コミュニケーションが円滑になれば、様々な課題も発生しにくくなるというようなことで、この辺は区としてしっかりと力を入れていくというようなところで位置づけています。

それでは、次の6枚目のスライドでございますけれども、ただいまの課題の原因にもなっておりますけれども、また、その課題に対応する方法というところの先ほどの部分にもつながってくると思います。まず、一つ課題としては、制度や生活情報等が外国人に十分に行き届いていないということが現実問題としてございます。なかなか

外国人の皆さんにうまく情報が行き渡らないことで、どういうふうに生活をしていけばいいのか、あるいは地域の中でどういうふうに皆さんとコミュニケーションを取っていったらいいのかですとか、その辺がなかなか分かりづらいところがあるのかなというふうに思っています。

それから二つ目に、文化や生活習慣の違いからトラブルが生じることがあります。外国人の皆さん、最初に日本の空港にお見えになられたときに、居住地のことに関する部分のところから始まりまして、ずっと日本で生活していく方々、結婚ですとか出産、それから仕事、お子さんの教育ですとか、自分の体調ですね、病気になるということがありますので、日本で暮らしていく中で様々なことに問題に直面をしていくわけでございます。それから、言葉や文化の違いにも戸惑うことがあるということでございまして、地域社会に住む誰もが安全快適に暮らしていくために、こうした課題に対して様々な支援が必要というふうになっています。

次に、7枚目のスライドにまいります。

こちら、先ほどの課題のところでございますけれども、病気や事故、災害などの緊急事態が発生した場合ですけれども、在留資格というものがございまして、そうした資格にかかわらず、全ての外国人に対して迅速な対応が、人道的な配慮ですとか、そういったところも含めて求められてまいります。特に災害に関しては、発災から、その後の暮らし、復興までの暮らしですとか、様々な場面に応じた支援が必要というふうになってきます。このような災害ですとか、そういったものが起こらないにこしたことはないのですけれども、もしも起こった場合ということにしっかりと備えて、日頃からスムーズに対応できる応援体制ですとか、そういったものを地域の中で構築していくことが求められています。そうしたところの課題でございます。先ほど申し上げました、外国人の皆さんも、支援を受ける立場だけではなくて、支援、担い手といいますか、そういったところの視点も必要だということが重要となっています。

次に、8枚目のスライドにまいります。

こちらは、両親が外国人の方だったり、両親の一人が、片方が外国人だったり、日本にも外国にもつながりを持つお子さんがいらっしゃいます。外国にルーツを持つお子さんであるというだけで理由のない差別をされ、両親の抱える問題にお子さん自体が傷つくというようなこともございます。子どもの権利を誰もがしっかりと地域の中で認識すること、守ってあげることが大切となっています。幼稚園、保育園、小学校、中学校と、お子さんが成長していく過程の中で、子ども同士の関係、保護者同士の関係をうまく作れるかどうか、こうしたものが大きな課題というふうになっております。

それから、その次の9枚目のスライドにまいります。

在住外国人の生徒にとりましては、高校や大学などへ進学するに当たって、様々な壁がございます。実態としましては、現在の日本全国の高校進学率は98%を超えているのに対しまして、在住外国人生徒の高校進学率は、この数値を大きく下回っています。正確な統計はありませんけれども、6割から8割程度しか進学していないとも言われてございます。進学力の低さというところは、様々な要因があるというふうに

思っていますけれども、その最も大きな要因は日本語力というふうに思っています。生活する上での日常的な会話は問題なくできても、読み書きをはじめとした学習言語としての日本語力が十分ではない例が多々あります。

もう一つの課題は、進学に関する保護者の皆様の認識の問題です。将来、帰国することを前提としている保護者の方は、日本における子どもの教育には、それほど関心を示さない場合もあります。また、お国柄といいますか、そういったところで日本とは違いますので、高校に進学すること自体が一般的ではないという場合もございますし、最近問題になってきているのは、日本で言うところの義務教育課程、小学校・中学校なのですが、お国によっては、そういう義務教育という習慣がなかったりしますので、義務教育というものに通わせる意味がないというようなところご理解をいただいていて、お子さんを学校に通わせないというような、そういったような事例も出てきているというふうに聞いてございますので、そうしたところが、今、大きな問題というふうになっております。

そうした意味の解決策としては、やっぱりしっかりと保護者の皆様にも、そういった教育の大切さ、それから日本の義務教育、そういったものもしっかりとご理解いただく、そういう取り組みが必要になってきています。

次の10枚目のスライドにまいります。

こちらについては、北区の外国人に多い在留資格でございますけれども、永住が一番目で、二番目は留学というふうになっています。留学生たちは、大学ではなく、彼らが生活する地域社会そのものの活力にもなり得る存在であります。留学生が地域社会と交流し、充実した生活を送るための環境整備や活躍の場の提供が大切というふうになっています。

次に、11枚目のスライドにまいります。

世界経済のグローバル化が進みまして、生産、消費、投資といった経済活動は国境を意識せずに展開されるようになってきています。国境を越えて移動する人の動きも活発となっていて、外国人が日本で働くことが特別ではない時代になっています。皆さんも、ふだん、生活される中で、買物をコンビニでされたりだとか、飲食店でお食事を取られたりとか、そういったところあると思いますけれども、店員の方が外国人の方であるというのが、かなり当たり前のような状況になってきています。そうした中で、生活やコミュニケーションの支援など、外国人の皆さんが日本の雇用制度に関する情報を十分に持っていないことなどに配慮しながら、仕事に適應できるようにすることが求められています。

次に、12枚目のスライドにまいります。

日本の暮らしが長くなったことに伴いまして、在住外国人の高齢化も進んでいます。しかしながら、現状においては、外国人に対する老後の支援体制の整備はなかなか進んでいないというのが実情です。年金ですとか介護などの社会保障については、制度上、国籍条項は撤廃されているのですが、実態として、年金者の存在や言語や文化の違いから生じる介護サービスの提供の壁なども大きな課題になっています。日本人の高齢者と同じように、外国人の高齢者に対しても、地域で彼らの老後を支え合うための仕組づくりや、今後進んでいくであろう高齢化する多文化社会への理解を育むよう

な取り組みが必要となっています。

次に、13枚目のスライドにまいります。

「共に地域を作るためには」というところでございます。言葉や文化、生活習慣の違いから、お互いがお互いをよく理解できないために、地域では、日本人と在住外国人との間で日常生活がスムーズに営まれない状況が少なからず発生をしています。このような状況を少しでも和らげ、日本人と外国人が安心して暮らしていける環境づくりを区では目指しているところでございます。

その次、14枚目のスライドでございます。

多文化共生社会の実現に向けての、このスライドですけれども、区では、次の3点の視点から、検討・取り組みを行っております。（1）として、日本人と外国人が安心して暮らしていけるまちづくり。次に（2）として、多様性を尊重し、生かす地域づくり。（3）として、多文化共生を推進する人づくりというふうにしています。なかなか、交流機会の創出ですとか、そういった部分は、コロナ禍でかなり今制限されている状況ですので、そういった機会を作るといところは難しいところもあるのですが、様々な、そのホームページの活用ですとか、そういったところも含めて、外国人向けの広報紙ですとか、そういったものも発行しながら、こうしたところに取り組んでいるところです。

次の15枚目のスライドでございますけれども、多文化共生社会の実現に向けて必要なこととしまして、まず、コミュニケーションを取ること。相手を理解する気持ち、自分の気持ちや考えを相手に分かるように伝えていくこと。それから、外国人への日本語教育、情報提供、学校教育、医療、福祉、こういったものの充実が必要だというふうになっています。

最後に、多文化共生社会の実現に向けては、こういうふうにたくさんの課題があるのですが、一番大切なのは、しっかりとコミュニケーションを取ることかなというふうに思います。それには、やはり相手を理解する気持ちが欠かせません。相手の立場に立って考えてみる。そして、自分の気持ちや考えを相手に分かるように伝えていくことも大事です。こういったことは、お互いさまといいますか、そういったところもあると思いますけれども、これからの私たちが暮らす社会と次の世代が担う未来をどのようなものにしていくのかといったことを踏まえながら、多文化共生の環境づくりに取り組んでまいります。

大変雑駁ですが、ご清聴ありがとうございました。

◎広報課長

総務課長、どうもありがとうございました。

3 . 区 長 挨 拶

◎広報課長

それでは、先ほど、総務課長の説明始まりましてから区長がお見えになりましたので、ここで区長から一言ご挨拶をさせていただきます。

◎区長

皆さん、おはようございます。また、新年明けましておめでとうございます。

本日は、お寒い中、私は寒いのですが、皆さん一肌脱いでいますね。暑いですか。燃えているのですね。ありがとうございます。

本日は、早朝から、大変お忙しい中ご参加いただきまして、ありがとうございます。

第3回区政モニター会議、ご出席いただき、重ねてお礼申し上げたいと存じます。

皆様には、令和2年7月の会議以来、コロナにおいても、テーマごとのご議論を熱心に重ねていただいたとお聞きしています。本日は、皆様のお顔をこうして拝見をしながら、様々なご意見やご感想を伺うことができるとのことで大変うれしく思っております。毎回皆様からいただいたご意見、ご提言は、それぞれの担当課で参考にさせていただいております。改めてお礼を申し上げます。

さて、私は、区民の皆様と行政との協働によってこそ、よりよい北区が作られると考えており、区長就任以来、「区民とともに」を区政運営の基本として貫いてまいりました。この区政モニター制度も、その一環として位置づけているものです。皆様がモニターとしての経験によって区政に対するご理解を深めていただくとともに、さらなる興味と関心をお持ちいただければ幸いです。そして、よりよい北区を作るパートナーとして引き続きご活躍いただくことを心から願っております。

2年間、本当にありがとうございました。そして、これからも、どうぞ皆さんよろしく願いいたします。

以上です。

◎広報課長

区長、どうもありがとうございました。

4 . 発 表

◎広報課長

それでは、先ほどの総務課長からの多文化共生への取組みの説明を受けまして、皆様のほうから、これに対してのご感想やご意見、また2年間のモニター活動に対してのご意見等あれば、順にお願いをしたいと思います。ありがとうございます。

順番なのですけれども、大変恐縮ですが、あいうえお順ということで、よろしくお願いをいたします。

マイクのほうは、職員のほうが順次回させていただきます。

◎区政モニター

おはようございます。

私は、区政モニターという応募の区報が出たときに、もともと田舎から進学で東京へ出てきて、北区には、まだ三十数年しか住んでないのですが、北区のことを、仕事をやめるまで、ほとんど縁がなくて分からなかったので、できるだけ知りたいという思いで参加しました。特に、少子高齢化と言われる時代で、高齢者が多いということもありましたし、それからお子さんが減っているということもあったり、防災の観点で興味がありましたので、そういったテーマでお話を聞けばいいなということで参

加しました。その結果、いろいろ取上げていただいた中に、そういった問題があって、非常に役に立ったと思っています。

今回の多文化共生は、よく国際化とかというテーマだったと思うのですが、自分自身が、これまでなかなかそういう機会もなく、外国人の方といえば、先ほどお話あったように、まさにコンビニの店員さんとか、居酒屋に行ったときのお姉さんたちぐらいしか接する機会もないので、まず、どういう方が地域に住んでいらっしゃるのか、自分の周りにいらっしゃるのかというのが分かりませんし、いろんな国の方が来ますので、それらの人たちの生活習慣や考え方も全く分からないというのが実態だと思います。現に、地域の人々との交流すらないのに、外国の方と、じゃあどうやってお付き合いしていったらいいのかということで考えると、なかなか難しい点はありますけれども、とにかく情報を出していただいて、できるだけ自分の中で受け止めながら、相互理解と、相手方を尊重しながらも、お互いにしっかり生きていくという考え方が大事だなというのは、今のお話の中でも分かりました。でも、やはり、そのためにも、教育の場とか、小さいお子さんを通しての交流だとか、地域でなかなか大人が交流するというのは難しいと思うので、そういう小さな機会でもいいのですけれども、そういう機会を通して交流が進んで、言葉については、とてもいろんなことが無理ですから、まさに、こちらに来ていらっしゃる外国人の方に、まず母国語として日本語をしっかり理解していただけるのが一番早いのかなという気がしました。

そういう中にあっても、やっぱり地域の中で核となって、よく、いろいろなところで活動してくださってる町会の方々に、いつも感謝の思いがありますけれども、そういう人、地域でのリーダーとなってくださるような人づくりみたいなものがあって、つなげていく役割を担っていただけると、参加もしやすいかなという気もしました。そういったことでいえば、地域のそういう人たちとか、例えば区役所の人たちでいえば、区役所の皆さんは、どのくらい外国人の方々と、職員の方、一人一人、そういう機会がお持ちなのかどうかということもあるので、「先ず隗より始めよ」じゃありませんけれども、区役所の職員の皆さんも率先して、そういう取り組みをしていただければと思います。

ちょっと長くなりました。ありがとうございました。

◎広報課長

どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、よろしくお願いいたします。

◎区政モニター

おはようございます。

私は、自治会の枠で来させてもらいまして、私、連合会の会長もやっております、私が行くのはどうかと思いましたが、やっぱり、これも一つの勉強だと思いついて、参加させていただきました。

北区がおやりになっている区民に対する様々なところからの意見の聴取、もしくは北区の行政に対する区民の要望なんていうのを、様々な形でおやりになっていただけているということは、大変ありがたいことだと私は思っております。こういうのをもっと広げて、例えば、私どもの国は民主主義国家でございますので、選挙を通して区議会

議員を選んで、それを通して区議会に申し上げるというのも当然ありますけれども、そうでない一般の方々、こういう方々を、国・区政モニターだけにかかわらず、様々な、例えば自治会とか、そういう方々も含めてやっていただければ、行政というのは独善に陥りがちなので、大変申し訳ないですけど、そういうふうな方々が声を聴けるような制度を、もっと充実していけばいいかと思います。これが第1点です。

それで、2分しかないので、ちょっと時間が。第2点は、共生文化、これ、ちょっと私、今から40年ぐらい前に海外で生活したことがありますので、その当時、アメリカのニューヨークにいたことがあったので、その当時、二つのことを言われた。メルティングポット、サラダボール。キーワードは二つあって、これ、ちょっと説明したいと思います。メルティングポットは、日本語で言うと溶鉱炉というふうに解釈されたようです。いろいろな人たちが集まって、そこで溶け合って一つのことができればいいのですけれども、現実的には、そういうふうにならなくて、今も多分そういうふうに言われているのは、サラダボールになる。サラダというのは、いろいろな野菜がございしますね。それが料理して一緒になるのではなくて、別々の形で、それがサラダになる。サラダボール。今の世界の体制から見ると、メルティングポットにはならないだろう、サラダボールだろうと私は思う。いかにして、このサラダボールをマネジメントするようにしていくのか。これは大変必要なこと。キーワードは一つあって、他の区政モニターさんがおっしゃられたように、教育なのです。教育の中で一番日本で欠けているのは、日本語教育に関する制度の力、行政の力が非常に低い。海外に行かれますと、よく分かるのは、特に英語圏は英語をものすごく、そういう意味でいえばサービスとして英語教育をやる。あと、言葉を理解してない限りには、それぞれの文化とか、その人の、他とのコミュニケーションが取れないので、ぜひお願いしたいのは、日本語教育を無料、もしくはそれに近い形でやっていただきたい。

それから、ご存じのとおり、日本は教育というのはものすごくしっかりしているんですけども、教育、小学校・中学校は、さっき言われました義務教育ということで相当力を入れていただきたい。

それから、これからも、ぜひとも多文化は、もう避けられない時代なので、多文化は、もっと言えば、英語で言うとディスクリミネーション、差別の問題があるので、それを唯一越えられるのは教育の力だと思いますので、ぜひ、これは、北区は先頭を切ってやっていただければありがたいかなと。

すみません、長くなりました。

◎広報課長

どうもありがとうございました。

それでは続きまして、よろしくお願いいたします。

◎区政モニター

こんにちは。

堀船地区というところから参りました。王子駅の南口から明治通りのほうにずっと行った、石神井川に沿ったところでございますので、どうしても水害とか、そういうものに関心が多く持っておる地区でございます。

今の多文化とか防災とか、プラごみとか、いろいろな問題を話し合いなり勉強させて

いただきましたけれども、一つだけというのではなく、みんなそれが、外国人の方にも、これ、防災のときにはこう、水害のときには、いろんなことが全部関連していることだと思います。難しいことは私は分かりませんが、外国人の方もたくさんいらっしゃいます。私、学校のほうのこともやっておりますので、転校してくる方、中国人の方とか、あと、今、顔を隠しているスカーフをかぶった方とか、いろんな方がいらっしゃいます。でも、丁寧にみんなと仲よくするということを自分たちで考えながらやっていって、自然に溶け込んでいただけるように、やっぱり、ごみ問題とか町会でもたくさんあります。でも、分からないのですから、丁寧に教えて、丁寧にみんなで行っていかないと、強制ばかり、こうしなさい、ああしなさいでなく、みんなで行っていき、町会づくりをしていきたいと思っております。ですので、こちらで勉強させていただいたことを、町会に持ち帰りまして、活かしていきたいと思っておりますので、ありがとうございました。

◎広報課長

どうもありがとうございます。

続きまして、よろしくお願いします。

◎区政モニター

よろしくお願いいたします。私は、公社1、堀船のところに住んで13階にいる者です。

それで、私は、ちょっと小さい意見なのですが、自分で感じた周りのものだけのことでまとめてまいりました。いっぱいしゃべっちゃうと、いろんなこと、これも言いたい、これも言いたいということが出ちゃいますので、ちょっとメモ書きさせていただいたことを読み上げます。よろしいでしょうか。

◎広報課長

お願いします。

◎区政モニター

私は堀船地域に住んでおりますので、飛鳥山での地域の催物、区民まつり、民商まつり、盆踊り、ほかにもいろんなものを見て、参加して、見て回っております。日本人の方、外国人の方も屋台出店していましたので、いいことができているなと感じました。私の公社1では、餅つき大会、花火大会、防災大会があり、外国人の方も、自治会には入会していませんが、いろいろなものが無料で頂けますので、外国人の方は、友人、子どもたちを連れて参加しています。自治会には、長くいれば理解し、加入してくれると思っております。

多文化共生を発展させるには、区は月1回とか何か月に1回でも、外国人のお店、日本人のお店の店舗を出し、買物ができれば、相互の関係が上手に保てるのではないかと思います。やはり、進歩するには一連の活動を実行するべきだと思っております。

簡単ですが、以上でございます。

◎広報課長

ありがとうございました。

続きまして、よろしくお願いします。

◎区政モニター

北区赤羽北から来ました、よろしくお願いいたします。

前回、11月6日の会議で、この資料が配られて、ある方が、いみじくも、こんなもの誰も読みはしないと言ったんですね。確かに、私も、そういえば、引っ越してきたときに読んだぐらいだなと思いました。11月6日は、そのプラスチックごみの資源化ということで資料を頂きました。資料を、始まる前に、ぱらぱらと見て、また規制強化かよと、住みにくくなるなと思ったのですが、区民モニター、その会議をして双方向に質疑を含めた会話をしたところ、これ、規制強化じゃなくて脱炭素社会に向けたリサイクル資源の拡大だということが分かりました。こんなふうに、やっぱり双方向に会話をするということは非常に重要なことだと思います。先ほど区長が言われたように、よき理解者になってほしいということ。そういった意味で、この区政モニターというのは非常に成功したものではないかと思います。

先ほど、他の区政モニターさんも言われたように、やはり、言葉というのが一番重要ではないかと。今日の、その多文化共生への取組みに関しても、やはり言葉の部分に行政あるいは隣り合った近所の人なども注力して、双方向の対話を十分にできるようにするというのが一番重要じゃないかと思いました。

この2年間、いろいろ勉強させていただきまして、本当にありがとうございました。

◎広報課長

ありがとうございました。

続きまして、よろしくお願いいたします。

◎区政モニター

滝野川地区の田端から来ました、よろしくお願いいたします。

2年間、赤羽地域、王子地域、滝野川地域の皆さんと交流ができたことが、私は本当に一つの勉強となりました。やっぱり、知らない地域からのお話を聞く、本を見て赤羽はこういうものがある、王子はこういうものがある、滝野川はこういうおいしいものがある、名所各所があるというのは知っていても、やっぱり皆さんからお話を聞いた中で、とっても私は身になったと、自分の中では思っています。本当に、2年間ありがとうございました。

それで、共生の中では、うちの地域には、たまたま、ちょっと外国人の方が少ないのですね。でも、やっぱり皆さんおっしゃったように、言葉から始まるのが、やっぱり一番だなと。ありがとう、こうやって守るんだよということを会話しながらやっていきたいと思いました。

本当、2年間ありがとうございました。

◎広報課長

ありがとうございました。

続きまして、よろしくお願いいたします。

◎区政モニター

まずは、皆さん方に、学ばせていただいてありがとうございました。

企業に入りますと、いろんな研修がありまして、皆さんご存じだと思うんですが、漢字の口という字に2画を加えて、あなたはどんな漢字を思い出せますかというのがありますよね。単純に考えると、田んぼの「田」とか、「四」という字とか出るんで

すが、これの答えは、一人で考えても5個とか6個しか浮かばないんですよね。それを、5人、6人、7人、8人と大勢の人たちと考え込んでいくと、大体27個ぐらいまで近づいていけるかなというのがあります。そういった機会を、この区政モニターでは頂戴できたのかなと思います。

最後にふさわしい、今日、テーマだったと思います。外国の方を知ることによって、自分たちを知る。日本人の中でも、まだまだ支え合えてはいない。自助・共助・公助とかであっても、まだまだだろうと。すなわち、人類が世界で79億人いたとしたならば、79億の文化がそこにはあるので、何が大切かという、自分が語ることよりも、相手が何を考えているかを、まず聞いて、聞きまくっていくという、傾聴するということが今はやっていますけれども、それがとても大切で、それを北区の職員の皆様、そこから、ここにおいでの皆様から、2年間、めちゃめちゃ学ばせていただきました。ありがとうございました。

◎広報課長

ありがとうございました。

続きまして、よろしくお願いいたします。

◎区政モニター

私は赤羽北三丁目にあります緑が丘自治会というところから参加しています。実は、私、参加したのは去年からでして、その前年の方が、何か途中でやめてしまわれたので、どなたかやっていただけませんかという声がありまして、自治会のほうからありまして、ぜひやらせてくださいということで、去年から参加させていただいたので、私は1年だけなのですけれども、とても有意義に過ごさせていただいたと思っています。

最初に、1回目は防災対策ということで取り組まれたと思うのですが、この気候変動で、その後のプラスチックのときにもやったんですけども、気候変動で大きく私たちを取り巻く環境が変わってきて、一旦台風とか起きますと、物すごい巨大な台風が起きて、西日本豪雨ですとか、それから千葉の豪雨ですとか、本当にすごい災害が起きてしまって、いつどこで、そういう災害が起きるか分からないというような状況ですので、私たちも、いつそういう目に遭うか分からないと。そのときに、どういうふうな対策を取るかということで、自分たちの避難場所はどこなんだろうとか、どういう防災対策が取られているのだろうかとか、北区のほうでは、どういう避難場所を設定しているのだろうか、その中身はどうなんだろうかということで、いろいろと皆さんから意見や質問があって、私も自分の身近なところで、いざ、台風が起きたときにどういうふうに避難するのかといったらば、地震が起きたときでもそうなんですけれども、今、高台にいますのですが、そのときには崖の下にある袋小学校に避難しろということになってまして、それはちょっとおかしいのではないかとということで、もし荒川が氾濫したときには、そこはもう浸水してしまうわけなので、その浸水地域が避難場所になっているというのは、とってもおかしいと。やっぱり、北区のほうでも、きちんと実態を調査した上で、どこが避難場所にふさわしいかということ、改めて、そこは検討していただいて、設定していただきたいという意見を出した覚えがあります。

それからあと、2回目のプラスチックの資源化なのですが、これは、北区のほうで、北区ニュースで載りました7月の「北区ゼロカーボンシティ宣言」ということが基になって、プラスチックの資源化ということが具体的に出てきたのだと思うのですが、これ、取り組むに当たっては、やはり手順としてどういうふうにやっていくかということだけではなくて、なぜこのプラスチックの資源化が必要なのかということを区民の皆さんによく知らせて、周知して、その上で、こういうことが必要なんだよということでも取り組まないと、ただ、細かく何十個にも分けて出さなきゃいけないとか、そんなのしちめんどくさいとか、そういうことになって、なかなか取り組みがうまくいかないと思うので、気候変動CO₂を減らしていくんだということ、2050年までにはCO₂を削減してゼロにしていくという、そういう方向でもっていかないと、なぜそれが必要かといったら、やはり温暖化で、どんどん環境が変わってきてしまって、食料も生産されなくなるとか、あと南の島なんかもどんどん沈んでいってしまっていますから、そういうことが身近なところに、私たちにも襲いかかってくるんだよということで、私たちが生きている時代だけじゃなくて、子どもたちの時代に、そういうきちんとした環境が残せるどうか。ということは、やはり、ごみの問題ですとかプラスチックの問題、こういうことにも関わってきているので、きちんと分けていきましょうということを、きちんと取り組んでいきましょうということを、区民の皆さんに広く知らせていく必要があると思います。それを、ぜひやっていただきたいと思っていますし、北区でもって……。

◎広報課長

すみません。もう少し短めで。ほかの方もるので、申し訳ありません。

◎区政モニター

分かりました。

区長がいらっしゃいますので、このゼロカーボンシティというのは、ぜひ本当に真剣に区民の皆さんに知らせて取り組んでいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

あと、今日のテーマなんですけれども、私は近くに外国人の方がたくさんいらっしゃらないのでよく分からないんですけれども、やはり、諸外国の方たちとも、3万人以上いらっしゃるということですので、仲よく共生していく取り組みというのは、すごく有意義なことだと思いますので、ぜひこれも続けて取り組んでいただきたいと思います。

ということで、ぜひよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

◎広報課長

どうもありがとうございました。

続きまして、よろしくお願いいたします。

◎区政モニター

東十条から参りました、2年間、いろいろお世話さまでございました。ありがとうございました。

私は、北区に七十数年、生まれてからずっと住んでおります。子どもの頃は、環境がもっと豊かでございまして、荒川で魚を捕ったり、飛鳥山の公園で桜を見たり、ト

ンボを捕ったり、様々な自然に親しんで楽しんでまいりましたけども、そのまま逆に大人になっちゃいまして、今回、いろいろなテーマを取り上げていただきましたけども、そういう客観的にどうして改善をしていくかというような問題点は、あまり考えたことがなかったんですけども、実際に、この2年間でいろいろ防災の問題ですとか、ごみ処理の問題ですとか、テーマを与えられて考えてみますと、やはり、これからもっと北区のために頑張らなくちゃいけないなと、改めて、この歳になって気がついた次第でございます。

たまたま私、東十条で高齢の人がおりまして、101歳に、もうなったかと思えますけども、前回、北区ニュースで区長と一緒に写真が写っておりましたけども、「長生きするなら北区が一番」と、そういう意味で、環境の整備も北区が一番、そういう、いろんな面で北区というのは住みやすいのだと。その代わり、やっぱりいろいろ工夫していかないと環境も壊れてしまう、そういった面が、危険がはらんでおりますので、これからいろいろ2年間学ばせていただいたことを、もうちょっと冷静に考えながら、一生懸命、多少北区のために頑張っていきたいと思えます。

ありがとうございました。

◎広報課長

ありがとうございました。

続きまして、よろしくお願いします。

◎区政モニター

こんにちは。志茂二丁目からやってきました、今日のテーマであります多文化共生ということについて、自分は先入観を持たず、好奇心、興味を持って、いろいろな文化をのぞいてみるということが大切ではあると思えます。そして、それらの文化のよさやすばらしさを知り、認め合うことにより、共生というのが生まれ、広がっていくのではないかと思います。ただ、一番大事なのは、さっきも他の区政モニターさんがおっしゃったように、サラダボールなんです。いろんな人種が集まってきます。そこで、やっぱり、言葉の壁というのが大きいと思えます。その言葉の壁、日本語はとっても難しいんですよ。漢字があり、平仮名があり、片仮名があり、世界ではこんなにいろんな、3種類もあるというのはないと思えます。ですので、グローバルで通用する英語というのが世界の共通語になればいいのかなとは思っております。

それと、外人さんが近くにいるならば、顔が知るならば、一言挨拶。例えばサワディとか、グッドモーニングは当たり前なんですけど、アンニョンハセヨとか、ニイハオとか、一言かけることによって心が広がり、つながっていくと思うんですよ。だから、本当に言葉の大切さを身にしています。

それと、この区政モニターに参加させていただき、自分が今から考え行動しなければ手後れになるということがあるということ。災害時の備えや対応、あるいはごみ問題、高齢化社会の問題などなど、とっても自分なりに大変に勉強になりました。本当に、この2年間、皆様と学べたことに感謝します。ありがとうございました。

◎広報課長

どうもありがとうございました。

続きまして、よろしくお願いいたします。

◎区政モニター

上中里三丁目に住んでいます、

北区に住んで20年になったので、定年退職して暇にもなったせいもあって、自分の住んでいる区がどういうところか知りたいなと思っているときに区政モニターという制度があることを知って、区政モニターになれば、北区のいろんな施設なども回れて勉強にもなると言われて楽しみにしていたらコロナになってしまって、代わりにいろんなことが勉強できて、こういう機会がなければ知ることができないようなこともいっぱい分かってよかったなと思いました。

この2年間ですけども、やっぱり北区というのは、区としてというか、区政としてもエネルギーがちょっとないのかな、元気がないのかなと、パワーがないのかなと、パワーに欠けているのかなというのが、ちょっと漠然とした言葉で申し訳ありませんけど、それはずっと感じて、今も感じています。そんなことを思いつつ、年が暮れて、今年の新年の初夢が、非常に面白いというか、変な夢を見ました。初夢に出てきたのが北区で、その北区の区長さんが女性なのです。しかも若い女性です。年齢は分かりませんが、50か、あるいは40かもしれませんけども、そういう若い女性区長の下で、区の職員の方が見違えるように活発に、生き生きとお仕事をされていて、それで、こういう施策、こういうことをやるのが23区の中で北区が初めてだというのが次々と出てきて、ほかの区とかと都内の自治体からも北区に見学にいっぱい来ているという、そういう夢でした。どんな人が、こういう北区の区長さんなのかな、どんな女性なのかなと思って顔を拝見しようと思ったところで夢が終わりました。

私の発言は、以上です。

◎広報課長

ありがとうございました。

続きまして、お願いいたします。

◎区政モニター

こんにちは。十条から参加しました、

私の町は、ご存じのように十条銀座というのを控えておりまして、近頃では、よその国、いわゆる多文化の食がいっぱい並ぶようになりました。そして、そういう食堂もいっぱいできました。

前回のごみ問題のときに、私も悩んだのですが、ごみの出し方、とっても苦労しました。近頃では、もうすっかりみんな慣れまして、だんだんうまく出してくれます。最初の頃は大変でした。好き勝手に出され、またそれを処理する私たち、とても苦労しました。

今日のテーマであります共生、一緒に、共にみんなで助け合うということ。実はこれ、ちょっと私ごとになりますが、11月の末に奥鬼怒の加仁湯温泉というところに行きましたら、スタッフがほとんど、80%外国の方でした。ちょっとびっくりしました。オーナー以外はほとんどそうで、日本にはいい文化があって、お茶わんはここに置いて、汁物はここに置く、そういういい文化もあるのですが、他国の方にとっては、まだまだ難しい課題だと思います。しかし、徐々にお互いに話し合って、助け合っていけば、いいことが生まれると思います。最後に、その方に何年ですか、日本に

来てと聞きましたら、4年。2年間東京にいましたと。話をしましたら、十条にいたということが分かりまして、より一層近づきました。そうやって、みんなでお互いに助け合い、話合い、それが大切じゃないかなと思っております。

2年間、ありがとうございました。

◎広報課長

ありがとうございました。

続きまして、よろしくお願いいたします。

◎区政モニター

こんにちは。上中里二丁目から参りました、

多文化共生社会のことについてなんですけども、やはり、外国人との交流が非常に少ないと思います。同じ町に住んでいてもですね。それで、提案なんですけども、町会単位で小さなイベントをするのが一番有効なのかなと思います。小さな、本当に小さなイベントほどいいのかなと思います。そして、そのイベントを実行するときに、北区の方が一人派遣していただいて、音頭を取ってもらうというような形でもいいと思います。そうすれば、狭い範囲でイベントを行いますと、そのイベントが終わった後、道で擦れ違ったときに、この間の人だとか幾らか感じてお互いに知り合うことができると思いますので。

それから、外人の立場に立ってみますと、やはり、町会に、何か止まり木みたいなものが欲しいのではないかなと思います。ちょっとした生活のことを知りたいときとか、そういうときに、ちょっと聞きたいところ。止まり木が何かというのは、また町会単位で考えればいいことだと思いますけども、そういう小さなことを、ちょっと知りたいとか、そういうことがあると思いますので、その辺、そんなにお金もかからないと思いますし、すぐ実行できることだと思いますので、よろしくお願いいたします。

私も、2年間、この区政モニターに参加しまして、当初予想していたよりも非常に有意義だったなと思っております。感謝しています。どうもありがとうございました。

◎広報課長

ありがとうございました。

続きまして、よろしくお願いいたします。

◎区政モニター

田端新町の滝野川地区から参りました、

私の住んでいるところは、西日暮里に近くで、とにかく何もできない。できるのは、マンションだけです。明治通りなんか、もう、マンション、ずらずらと両脇にできているような、そういうところですよ。

それで、私も町会のほうに、いろいろなことで参加しておりますけれども、とにかく皆さん協力的で頑張っています。そして、一つ思ったことは、外国の方が、先ほども言われた方がいらっしゃいましたけど、コンビニの店員さんのことを見て、すごいなと思いました。皆さん、日本語ぺらぺらで、はつらつと働いているところを見ると、頑張らなくちゃなと思うこともあります。

そして、区政モニターのことですが、初めは嫌だなと思っていたのですが、だんだ

ん楽しくなって、いろいろ勉強できたことをありがたく思っております。

以上です。ありがとうございました。

◎広報課長

ありがとうございました。

続きまして、よろしくお願いします。

◎区政モニター

ちょっと、声が出ずらくてすみません。

赤羽台から参りました、まず、多文化共生の取組みなのですが、これ、北区のホームページで指針が出ています。こちら読ませていただいて、それに基づいて肅々とお進めいただければいいのではないかなと思います。ただ、外国人の方との接触というのは、非常に難しいと思っています。昔、あなたのお宅に外国の方をホームステイさせますかというご質問を受けたことがあるのですが、残念ながら、私はノーと答えました。多分、自分にとっては非常に難しいことだ。ですから、これは区の力をお借りして、外国の方とうまく進める施策を進行させていただきたいと思います。

あと、区政モニターなのですが、私を参加させていただいて非常に感謝申し上げたい。ありがとうございました。というのは、私の動機というのは非常にレベルの低いものでして、生ごみとカラスと家内の仁義なき戦い、これ、先ほど生ごみの出し方で困っているという方がいらっしゃいましたけど、私の地区に外国人はいらっしゃらないんですけど、日本人だけでも捨て方がまだ守らない方がいて、そのためにカラスが来て、ごみ場を荒らす。せっかくの網があっても、網の中から取って、ごみ屋さんが回収した後がひどいんですよ。それを毎回家内が掃除をするという因果な役割があるものですから、これはルールなのか、マナーが先なのかというようなことから、このモニターに応募させていただいた。おかげさまで、心が洗われる思いで、5回だけ参加させていただきまして、本当にありがとうございました。

ただ、会の進め方なんかで、ワークショップと言うのですか、やり方。それに慣れてなかったものですから、同じチームになられた方にご迷惑をおかけしたことあったかと思いますので、この場を借りておわびを申し上げるとともに、お礼をしたいなと思います。

次回から、もうちょっと、テーマの進行については、議論とかする時間を多くしてほしいと。あと、ディベートとか、そういうやり方も取り組んでいただければと思います。

私は、以上です。ありがとうございました。

◎広報課長

ありがとうございました。

続きまして、お願いいたします。

◎区政モニター

志茂のほうから参りました、北区民歴でいうと3年になります。

まず、2年間振り返ってですが、まず、コロナ禍ではありますが、その中で運営に携わってくださった皆様には感謝を申し上げたいと思っております。ありがとうございました。

おかげさまで、職員の皆さんが精力的に活動されているということを知ることができまして、すごく身近に北区を感じるようになりました。ただ、ここ最近ですけど、やっぱり、住みたい町ランキングだとか、子育てしたい町ランキングみたいな、イメージ調査にしろ、統計調査にしろ、北区が顔を出すこともなくなりというところには、すごく残念だなというふうには最近思っております。シティプロモーションの回でも申し上げたことではあるのですが、やっぱりプロモーションをしても、やっぱり中身が伴わないと張りぼてになってしまって、せっかく訪れてくださった方が、また来たいとか、住みたいとは思わず、結局離れていってしまうということになってしまっているのかなとも、ちょっと思っております。先ほど、他の区政モニターさんのお話でもありましたけど、やっぱり北区の施策とか計画を見ている、どうしてもなかなか事なかれ主義とか、ほかの市区町村で見たことがあるようなことだなと思うことが、ちょっと多いように感じていて、区民をわくわくさせてやろうとか、北区を変えてやろうとか、そういう決意というのがなかなか、まだ感じられないなというふうに思っております。ただ、その原因の一つは、やっぱり、区民が区政に無関心というところだとは思っております。反対意見というのは、すごく大きく聞こえちゃうのですが、その裏にいる無関心の区民の責任もあるかなとは思っております。区民が区に関心を持つような、わくわくするような施策だったりとか、逆に僕ら区民が、もっと区に参加しようという意識を、もうちょっと高めていければなというふうに、この2年間を通じて思っております。

いろいろとお伝えしたいことはありますが、時間も限られているので、まずはこちらで失礼したいと思います。どうもありがとうございました。

◎広報課長

どうもありがとうございました。続きまして、お願いします。

◎区政モニター

外国人とともに生活していくというところで、常設の交流の場所を設けて、気軽に交流できるような場所を設けるといいのかなと思います。特に家族連れで日本に来ている方は、いろいろとお困り事があると思いますので、気軽に相談できるような場所になればと思います。ただ、多くの外国人の方がみえたって、それぞれが来日の目的が違うと思いますので、簡単に交流に参加されてこない方もいらっしゃると思います。その辺も含めて、いろいろと施策を考えていかなければいけないのではないかと思います。

この2年間、モニター会議に参加しまして、コロナ禍、クラスターの発生源にもならず無事に過ごせたことを、とても喜ばしいと思います。グローバルな問題にも全て一人一人の人間の行動に関わっているということですので、これからも、その辺も注意しながら生活していきたいと思います。2年間、いろいろありがとうございました。

◎広報課長

どうもありがとうございました。

続きまして、お願いいたします。

◎区政モニター

2年間、どうもありがとうございました。

区政モニターをして、自分の視野も広がりましたし、役所はこういうことをしているんだとか、税金はこういうふうに使われているんだということを勉強できました。

今回のテーマに関してですが、2つ思いついたのですけれども、もうやっているのかもしれないんですが、区の職員とか、こういうモニターのメンバーに外国人の方が入ってもらいたいなと思います。あとは、さっき、茶道とか日本文化を外国の方に知ってもらいたいというのがありましたけれども、逆に、そっちの国の方に紹介してもらって、中国文化講座とか、中国語講座とかというのをやってもらって、お互いが理解し合うことが必要なんじゃないかなと思います。

2年間、ありがとうございました。

◎広報課長

ありがとうございました。

続きまして、お願いいたします。

◎区政モニター

豊川自治会から参りました、よろしくお願いします。

私は、北区に住まわせていただきまして50年ちょっとになりますけども、趣味で50年しか北区のことは分かりませんでした。最近、先日、NHKドラマで飛鳥山にある渋沢栄一記念館というものを見させていただきました。幕末の動乱から91歳まで生きられたということで、とても感動しました。現在でも、なかなか人間関係はたくさんあると思いますけども、それでも、いろいろな面で学ぶことがたくさんありました。隣人のことから外国人との関わりですよ、たくさん学んだことがありました。

2年間、どうもありがとうございました。

◎広報課長

ありがとうございました。

続きまして、お願いいたします。

◎区政モニター

西ヶ原に住んでおります。

ちょっと最初は今日のテーマについてですけど、いいことだなと思うのですけれど、北区、公園によく子どもを連れて遊んでいるんですけど、フランス語が結構聞こえてくるので、質問なんですけど、北区の外国人の特徴があれば教えていただきたいなと。例えば、トヨタの工場の近くにあるとか、そういうことではないので、なぜ、どういった国の人たちが多いのかなと、ちょっと知りたいなと思いました。

◎総務課長

簡潔にお答えします。

国籍の順位については先ほど申し上げたとおりでございまして、北区、割合、集合住宅、公営住宅なんかも多いというような状況がございまして、その辺で、割合、外国人の皆さん、お住まいになられているという状況はお伺いしています。特に、工場ですとか、そういったものの存在が外国人の皆様を誘致しているということではなくて、どちらかというと、その集合住宅、そういったものが背景にあるのかなというふうに思ってます。

以上です。

◎区政モニター

結構、フランス語の学校も近いのかなと思って。

◎総務課長

そうですね。

◎区政モニター

振り返りなのですが、私個人は3年前に豊島区から北区に引っ越してきて、子育てもしているので、住む、これからずっと住む町をよく知ろうと思って参加しました。参加してみると、結構、私と年代の違う方が多くて、そういった、ほかの参加者や、また区の職員の方の様々な意見とか、あと、やっぱり感覚を知れたのが、すごく発見だったなと個人的に思いました。豊島区、やっぱり10年ぐらい住んでいたもので、そことの比較でいうと、例えば、豊島区は区民ひろばというのを設置していて、0歳から100歳まで来てくださいと。異年齢の交流をすることで、例えば災害時に助け合えるというような関係を、顔見知りというのを作ろうというようなことを言っていたのをすごく私は理解していたので、それに比べて、結構、北区は児童館とか、高齢者向けとか、ちょっとすごい分かれているなというような印象があります。

同じく、公園についても、例えば豊島区は全部公園という名前にしているのに、北区は公園だったり児童遊園だったりしていて、かつ個人的に思うのは、児童遊園は子ども向けなのに、子どもはきっと児童遊園と言えないんですよね、長くて。なので、それだったらみんな公園にしたほうがいいなと前から思っていて、いつの回だったか覚えてないのですが、そういう、多分シティプロモーションの回で、そういう話をしたら、確かに児童遊園は高齢者は行ったらいけないような気がするとおっしゃった参加者の方がいらっしゃって、ネーミングのところでも、やっぱり多文化というか、異年齢とか、そういった方々の共生の視点をきちんと入れていくということが、ちょっと北区は足りてないのではないかなと思っています。

ついでに言うと、結構、北区の施設は、課名のネーミングセンスが、ちょっと意図がよく分からなくて、「育ち愛ほっと館」とか「子どもわくわく課」とか「高齢者あんしんセンター」とか、何をやっているのかが見て分からない名前が多いので、名づけをするときは、よく、分かりやすい、伝わる名前にしていただきたいなと思います。

あと、最後、意見なのですが、多分、こういったメンバーだと区政モニターのテーマにならなさそうなので、子育て一番について、ちょっと言いたいと思うんですけど、例えば保育園でのコットベッド、布団じゃなくてコットベッドの導入とか、学童保育での学童施設主体の弁当の導入とか、やっぱり働きながら子育てしている世代に向けての支援も、「子育て一番」と区報にも毎回書いてますけど、実を伴ったことをやっていただきたいなと、本当に思います。

2年間、いろいろ皆さん、ありがとうございました。

◎広報課長

ありがとうございました。

続きまして、お願いいたします。

◎区政モニター

皆さんこんにちは。私、ここから近くの王子本町二丁目から来ております。それで、時間の関係もありますので、私は、2年間の区政モニター活動を振り返っての意見、感想というところについて、ちょっと、若干述べさせていただきます。

現状のコロナ禍ということでありまして、役所の担当の方々も、いろいろご苦労があったと思うのですが、私としましては、区議会の本会議を傍聴したかったなと、一つは。それと、もう一つは北清掃工場ですかね、実際に処理されている場所を見て、またその辺のところを見学したかったということで、通常、モニターといいますと、飲んだり食べたりして、それに対しておいしかったとか、ここがまずかったと、こうしたほうがいいとか、そういった話も出てくるので、また、そういったことによって、またもうちょっと広がったかなという感じもします。

それと、もう1点なんですけども、私がモニター応募をした動機なんですけども、ここの北区に住みまして、私も半世紀以上住んでおりまして、通った学校も、小学校から高等学校、北区で全部出ておりますので、そういう関係で、大分いろいろ住みやすくなってきました、以前と比べますと。でも、考えてみますと、王子駅周辺の再開発というのがありますけども、それについて、今、若干ストップ状態でありまして、以前に比べると、エスカレーターができたり、エレベーターができたり、そういったことについてはあれなんですけども、JRとの関係もあると思うのですが、本来的に駅自体は、ちょっといまいかななということで、通りを渡るのも横断歩道を二つばかり待って渡らないと向かいのところへたどり着けないということで、歩道橋もありますけども、歩道橋もなかなか通っている人は少ないので、その辺の王子駅周辺の再開発についての、いろいろ、これからの構想であるとかということを、若干聞きたかったなという感じもします。

いずれにしても、この2年間、非常に私としては短かったのですが、それで、皆さんと一緒に討議や何かできまして、非常に有意義だったかなと思っています。今後は、一区民として、小さなことでも協力しながら、区民で命のある限り住んでいきたいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

◎広報課長

どうもありがとうございました。

続きまして、お願いいたします。

◎区政モニター

おはようございます。赤羽のほうから参りました。

私は、自治会のほうからの推薦で、この会に参加することになりまして、最初は何も認識がなかったものですから、自治会のほうから、どういう仕事をするのですかと聞いたら、まあ行ってみなさいということで、それで出させていただいて、この2年間は非常に貴重な経験させていただいて、自分的には、定年後の義務教育を受けたような感じで、非常に新鮮な形で再認識して勉強させていただきました。どうもありがとうございました。

それから、共生、多文化共生ということだったのですが、私、ちょっと、今、時々子ども食堂に参加させていただいて、外国人の方とお子さんと、よくお話しするんですけども、最初はお子さんだけ参加、来てくれたんですけど、最近、どうして

もお母さんかお父さん、連れてきてくださいということに来ていただいて、お互いに、お子さんだけだと分かりませんので、外国人の方に、将来、こういうところに顔を出して手伝ってくれるようなことも大事だよということを、お母さんとお父さん、両親に説明するためにも、お子さんだけじゃ駄目なので、そういう形で来て、コミュニケーションを取りながら食事をさせていただいているんですけれども。ただ、残念なのは一つあるんですね。外国から来る方、非常に何でも素直にいっぱい食べるんですね。日本のお子さんのほうが好き嫌が多いので、そういうところは、うまくコミュニケーションを取りながら、仲よく、それから食事の前にいろんなゲームしたりなんかするんですけれども、なるべく将棋とか碁とか、日本の、さっき華道とか出ましたけれども、日本の伝統と文化を教える意味でも、そういう形でやらさせていただいております。

それから、北区のほうでは、武蔵野ですか、住民投票みたいのありましたですね。質問なんですけれども、近い将来、ああいう形に進んでいくんでしょうか。

◎総務課長

武蔵野の外国人の投票の件だと思いますけど、今のところ、そういった話はございません。

◎区政モニター

行く末はということなんですけど。

◎総務課長

今のところ、特に、私ども、そういったお話、議会のほうからも聞いていたりですとか、地域のお声から聞いているといったところは、今のところはございません。

◎区政モニター

私も、またこの2年間、非常にいい経験させていただいて、次の世代ですか、なかなか高齢化になってきて、次の世代が、どんどんどんどん、こういう形で支えてくれる方が、少し消極的というか、少ないので、やっぱり共生するためには地軸を支えなくちゃいけないんですけれども、その支える側の次の世代が、どんどん、またやっていただかないとつながっていかないのではないのかなという形でしますので、区のほうでも、また、そちらのほうにも、ちょっとPRですか、していただけるような形があればと思ってます。

2年間、どうもありがとうございました。

◎広報課長

ありがとうございました。

それでは、大変待たせしました、最後になります、よろしくお願いいたします。

◎区政モニター

最後になりました。豊島から参りました。

私は、ずっと企業に勤めていて、北区は37年も住んでいるにもかかわらず、ただ寝に帰る場所のようなところでした。会社を卒業して、地域のことを知りたい、自分の愛読書のようになっている北区ニュースをずっと見ていましたら、こういう制度があるのだと思って応募いたしました。本当に、自分も広報系もやっていたこともあるものですから、北区ニュースはとっても分かりやすく、見やすく、毎回毎回、出

るのを楽しみにしているような状態なのですが、今回、こういったモニターに参加することによって、やはりだんだんだんだん頭もぼけてきていますし、そういった中で、多文化ではないですけれども、皆さんと、こういった形でお知り合いになったこと、あと、自分が住んでいる地域が、こんなにすばらしいところなんだということを認識させていただくことができました。

今回のテーマというのが多文化共生なのですが、ちょうど今年、オリンピックもございました。オリンピック、オリ・パラがありました。そういう中で、やはり、コロナ禍での開催はどうなんだという意見がたくさんあったんですけども、スポーツ選手を見ていると、日本人でも外国人でもなく、全部感動して、人としてなんだなという思いを強くいたしました。日本語がとっても難しい、自分も海外に旅行に行くときも、やっぱりその地域を思っても、コミュニケーションが取れないので、英語ができればなと思います。勉強しようと思っても、とっても難しいです。

その中にあって、日本語は本当に難しくて、どういう取組みを北区はしているのかなと見たら、「やさしい日本語」という取組みをされているということがあって、その中をずっと見てみますと、これ、私たちにも使えるんじゃないのかな。区の行政言葉は難しくて、全然自分で確定申告しようとしても難しくてといったときに、とても分かりやすい言葉で書かれていました。なので、やはり外国人行政というのは、やっぱり自分たちを知ること、自分たちの地域のよさを知ることにもつながると思いますし、グローバルな感覚を、やはり自分の中でも身につけていかなければいけないのではないのかなと思います。なので、何か、やはり交わっていければなというふうに思っております。

この2年間、モニターをさせていただきまして、すごく自分の中で、もっともっと知りたい、もっともっと知りたいというように思うようになりました。やっぱり、北区をいろいろうろろろするときに、自転車で動くのですけれども、自転車で道路を走っていると、がたがた道で、とってもつらいのですね。公園とか、すばらしい地域があって、区の皆さんもどんだんだんだん、そういったものをよく感じていただけたらというときに、やっぱり自転車の道についても、ちょっと改善をいただければなおありがたいなと思っております。

本当に、皆様と知り合えたことを、ありがたく思っております。どうもありがとうございました。

◎広報課長

どうもありがとうございました。

皆様から、様々ご意見、ご感想をいただきました。

ここで、この皆様からのご意見を受けまして、総務課長のほうから一言感想等を述べさせていただきます。

◎総務課長

すみません、たくさんご意見、お気づきのところいただきまして、本当にありがとうございました。

まず、多文化共生のところですが、たくさんご意見いただいたわけですが、やはりやはり一番多かったのが、日本語教育の充実、日本語教室の充

実、こうしたところかなというふうに思います。やはり、コミュニケーションを図る上で、日本語を覚えていただくということは、これは欠かせないツールであるというようにところは、皆さんご認識一致されているところだなというふうに思っております。区のほうでも、現在、日本語教室というのは実施しているのですが、来年度には、この回数ですとか、そういったものを、3倍から5倍に増やしたいというふうに、今、考えてございます。

それから、日本語教室も、従来、教える・教えられる側というところの、そういった一つの価値観だけじゃなくて、集まった外国人の皆様が、そこで結びつきといいますか、そういったものを作っていくって、そうしたところから、地域の皆さんとのコミュニケーションとか、そういったものを作れるような、そういう場にもしたいなというふうに考えています。この辺は、しっかりと、来年度、4月以降の中で回数を増やしまして実施をしていきたいというふうに思っています。

それから、やはりコミュニケーションの場、皆さんいろいろ町会・自治会でご活躍されている中で、個別に、そういった場を作っていることや、あるいは常設みたいな、そういった場も必要であるというようなご意見もいただきました。それからあと、相手の文化、日本の文化だけじゃなくて、お互いの文化を知るという意味で、相手の文化を知る場、そういったものも必要だというような貴重なご意見いただきまして、これについては、今、ちょっとコロナでなかなか、そういうイベントができないような状況がありまして、これもまた、少しコロナが落ち着けば再開をしていきたいというふうに思っています。

それから、外国人の皆様が地域の担い手として非常時、防災の中で果たしていく役割、そういったことも、皆さん期待をされているというようなことも十分伝わってといたしますか、分かりました。

それから、外国人を含めた多文化あるいは異世代交流の場、そうしたものも非常に大事だろうというところでありました。幾つか具体的な事例もご紹介いただきまして、参考になりました。本当にありがとうございます。

私ども区の職員としましても、しっかりと地域の中に、皆さんのところにお伺いをして、あるいは外国人の皆様とも一緒になって、そうした多文化共生の土台といいますか、そういったものをしっかりと築いていかなきゃいけないというところは、本当にそのとおりだなというふうに思っております。

たくさん、本当にご意見いただきまして、本当にありがとうございます。

それから、多文化共生以外にも、先ほどの防災、あるいは商業・産業、それから北区ゼロカーボンシティの部分で環境の部分、ごみの部分ですとか、あるいは子育てについても、具体的な豊島区の事例等も含めていただきまして、本当にありがとうございます。

あるいはまた、まちづくりの分野について、王子駅周辺というお話いただきましたけれども、まさしくそうしたものも、区として力を入れていっているところでございますけれども、引き続き、しっかりとここは取り組んでいかなきゃいけない課題だなというふうに改めて思いました。

区長のほうは、常々「長生きするなら北区が一番」、「子育てするなら北区が一番」、

それから防災への対応、それから環境への対応、この辺り、全て、区民の皆さんとともにしっかりと続けて進めていくというようなことを基本姿勢としてございますので、先ほど区長のほうからも申し上げましたとおり、そうした姿勢を大事に、これからも皆さんと一緒に実現をさせていきたいというふうに思っております。

私からの講評、以上でございます。

◎広報課長

ありがとうございました。

以上で、今回のテーマについての発表、講評は終わりになりますけれども、区政モニター制度につきましても、皆様から運営の方法など、いろいろとご意見、ご要望をいただいたところでございます。来年度も、この区政モニター会議は実施をしてまいりますので、いただいたご意見を参考に、運営の仕方などについても検討させていただきたいと思っております。

また、2年間、皆様方にはモニターを務めていただきまして、本当にありがとうございました。このモニター会議での経験を、ぜひ地域などで生かしていただければと思っております。また、この会議の延長線上になるものは、区のほうで用意をしてはございませんけれども、様々な審議会などでも区民の皆様から意見をいただく場面はたくさんございます。ですので、そういったところで皆様方、区政に対して、いろいろご意見を今後もいただければと思っております。

5 . 閉 会

◎広報課長

それでは、以上をもちまして区政モニター会議を終了となりますけれども、本日、最後でございますので、区長さんと皆さんで、一緒に集合写真を撮らせていただきたいというふうに思っております。その撮影が終わりましたら、順次解散ということにさせていただきたいと思っております。それでは、まず写真撮影する場所を、今作りますので、しばらく片づけなどしながらお待ちいただければと思っております。

6 . 写 真 撮 影

令和3年度第3回区政モニター会議議事録
令和4年2月発行

刊行物登録番号 3 - 1 - 1 1 9

発行

東京都北区政策経営部広報課

東京都北区王子本町一丁目15番22号